

「X」2月2日(木)岡村天神・久良岐能舞台・森浅間神社

(集合; JR根岸線「磯子駅」改札口9; 50分厳守同時出発)

(1) 行程; 「磯子駅」バス移動→「天神前」下車→岡村天満宮→岡村公園・梅林→金剛院→倉治能舞台→久良岐公園→森浅間神社→JR「磯子駅」。

(2) 食事場所; 「」。TEL; 045—。

1・岡村天満宮(祭神, 菅原道真, 本宮, 九州太宰府天満宮, 大坂北野, 鎌倉荏柄・稻荷社・力石・タブノ木)

創立年代不詳。鎌倉時代の建久年間(1190~98)に源頼朝の家臣が京都の北野天満宮の分霊を勧請, 此の地に社を創建したと言う。明治43年, 杉山神社と大神宮を合祀し, 杉山天満宮と称すようになったが, 昭和5年, 町名を取って, 岡村天満宮と改称した。大正期に, 元町薬師, 野毛山不動とともに三代縁日として賑わった。境内には撫で石牛像, 筆塚, 針塚, などや, 大正の頃ハマツ子に親しまれた大坂役者「市川荒二郎」らの寄進した石灯籠もある。この神社の縁の横浜人形「西瓜天神」や絵馬は特色のあるもの。

○力石; 力比べのために奉納されたと言うが, 古くは神霊が宿りという思想がありそれを差し上げる事により神の意を知ろうとした一種の石占い。(80貫・50貫・40貫が普通とされる)・稻荷社; 祭神は白笹稻荷大神様, 商売繁昌を守護する神, 衣食住を司る神, 本来は稻(命根)を初め五穀豊饒を司る「大地の神」を象徴する神, 人間の实生活に対し靈験あらたかな神である。

○天神様と牛; 菅原道真公が生まれたのが仁明天皇の承和12年(845)乙丑(キトウ)年6月里を取り囲み, 菅公を亡きものにしようとする公の従者田口達音, 島田忠臣等が迎え討って奮戦中白牛が飛び来て宿音を角殺し公の危機を救ったと言う伝説がある。菅公が59歳で亡くなられた時, 筑前之国(福岡県)四堂辺りに墓所を定めて葬ろうと, 牛車を引出したところ途中で牛車が動かなくなってしまったので, この場所に埋葬された。これが太宰府天満宮の始まりという。此の石牛は明治42年5月2

5日に地元及び崇敬者有志一同により奉納されたもので天神様のお使いとされる優美な全国的もまれに見る逸品の「天神様撫で牛」である。

2・岡村梅林

敷地、約7000平方m・白梅（豊後）や紅梅（紅千鳥）など170本余りが、シーズンには咲きほこる。

3・金剛院（高野山真言宗・本尊、薬師如来木像・ひな段に飾られた数多くの石造七福神・福德大黒天11月3日大黒天大祭・水子地藏・新四国東国八十八ヶ所霊場台六十四番阿弥陀如来札所）

元禄の頃（1688～1704）長誉上人の開基とされるが、開基は更に古く長誉上人が中興したものと伝う。延享2年（1745）根岸領書に医王山金蔵寺とのせ武蔵国風土記では瑠璃山と記されている。往時は堀ノ内宝生寺の末寺に属し、明治7年元町増徳寺の末寺となり、昭和26年高野山真言宗の一寺となった。江戸初期に再建されたと言われ、平成元年に「夢薬師」と命名し、薬師三尊立像を新たに安置し、現在の寺容を整えた。

4・久良岐能舞台（空いていれば見学可能・庭園、四季折々木々草花、東屋、池泉、灯籠、水琴窟、つくばい）

三方山に囲まれた日本庭園の中に、久良岐能舞台・大正6年・高浜虚子の兄で能楽会の専務理事だった池内信嘉氏の尽力により日比谷に立てられました。その後、東京芸術大学に移り、昭和40年、此の地に移築され、現在は市の施設となっています。

5・久良岐公園（自由広場・芝生広場・子供遊び場・大池・梅林・森林浴等散策路・休憩所・WC・売店）

昭和34年から42年にかけて、根岸湾埋立事業、その事業の一環として県住宅公社が、汐見台団地を建設した際、同公団が公園用地を市に寄付したので、周辺用地を買収公園整備に着手した。元の地形は緑豊かな丘で現在の池あたりから、大きな谷戸が入り込んで水田となっていた。この谷戸を約100万㎡の土砂で埋め立て、各種広場、低い方に大池、梅林を設け、森林浴、散策園路等を整備48年に公開した。その後、平成10年新たに藤棚を設け、池を改修して昔の趣を再生させた。当初、屏風ヶ浦公園と呼ばれていたが、市民公募の結果、かつて此の地が「久良岐郡」だったことから同年1

2月久良岐公園と改称された。

6・森浅間神社（森一帯の地位樹・武州小富士・富士山を象り三方からの登山路がある・市無形文化財神田囃子毎年8月お盆祭、江戸時代の神輿・朝日不動滝）

建武2年（1335）鎌倉扇ガ谷亀谷山権現堂6代修験者長円法印、時の将軍守邦親王の命により創建された森浅間神社より150年後の明応年中（1492～1500）権現堂15代修験者長恵法院が武州森村に移り住みに及んで此を開設したと言う。次いでこの滝に不動明王を祀り不動滝として修験者修行場とした。

寛政12年（1800）幕府により女人の富士登山が許されてから富士信仰が盛んになり各地に富士講中が出来た。お盆の神田囃子・正月の神楽・1月15日の「どんど焼き」・4月桜祭り。

朝日不動滝；かつて、不動堂とともに森浅間神社の境内裏手にあった豊かな滝は、朝日に輝く荘厳から、朝日不動滝と呼ばれた。周辺の開発で水量減少したが、今も美しい。

周辺散策参考資料

①久良岐郡（武蔵国＝神奈川県南端現、横浜市南、港南、西、中、金沢、磯子）

明治郡区編成では東は東京湾に面し、西は鎌倉、南は三浦、北は橘樹各郡に面していた。縄文時代中期に「久良」久良岐の注し、「続日本書紀」神護景雲2年（768）に「久良郡」とある。「吾妻鏡」正治元年（1199）武蔵国海月（くらげ）郡とあるが、室町時代以降は久良岐と書く。近世には大半が幕府直轄地となり、藩領は六浦藩。